

広報

## カナダ

毎月1日・15日発行



9 1日号

## CONTENTS

- 2~9ページ 特集 在宅福祉  
 10~11ページ まちのわだい 子ども会スポーツ大会ほか  
 12ページ こんにちは保健婦です。O-157だけじゃない!  
 13ページ 年金だより 年金を守るカギ 基礎年金番号  
 14~15ページ みんなのひろば はっぴーバースデイ ほか  
 16~19ページ 暮らしのインフォメーション  
 20ページ まちの伝説&むかしばなしほか  
 稻荷神社のカ石ほか

## I LOVE カナダ Fiesta ~仮装カーニバル

写真は、7月24日(～25日)に行われた『I LOVE カナダ Fiesta '96』仮装カーニバル表彰式で、「ドダレバチ・チーム」が最優秀賞に輝いた歓喜の一コマです。

『I LOVE……』は夏、恒例のイベントとして今年で6回目。両日を通じて、約3千人の人出でにぎわいをみせました。なかでも、初日に行われた仮装カーニバルには、8チーム60人が各チーム思い思いのコスチュームを身にまとい参加。今回ラストカーニバルと銘打って、最高の盛り上がりを見せていました。

最優秀賞には、「ドダレバチ・チーム」(大島輝子さんほか10人)が、昭和(初期)女の軽やかなステップと身のこなしを十二分にアピールした結果、栄えある賞と副賞の20万円を手に入れました。

そのほかの結果は次のとおりです。

優秀賞 「プレイメイツ」 特別賞 「金田テニスクラブ」  
 コスチューム賞 「ミッキーとゆかいな仲間たち」(糸田町)  
 パフォーマンス賞 「夏の夜空のギンギン虫」(添田町)

# 特集

# 在宅福祉

ますます進む高齢社会を前に、わたしたちはどう対応していけばよいのでしょうか。よりよい高齢社会を築くため、現在わが国では、「高齢社会対策基本法」や新ゴールドプランなどに基づく保健福祉対策が行われるとともに、介護保険制度創設に向けての検討が進められています。

金田町でも、平成6年2月に老人保健福祉計画が策定され、その計画に沿って、平成11年度までの保健福祉サービスが進められています。

今回の特集は、保健福祉計画のなかより在宅福祉サービスにスポットを当てました。

**30代夫婦**

博 幸さん ご夫妻  
中村 三千代さん



博幸さんは、中野工務店副社長、三千代さんは会社勤め。共働きの三十代半ばの幼稚園からいっしょの同級生ご夫妻。子どもは一男一女、四人家族で暮らしている。

●三組の夫妻へ、次の三つを聞きました。●

- ①自分自身が老後に寝たきりや痴ほう症になるかもしれないと思えますか。
- ②寝たきりの主な原因は脳卒中や骨折といわれていますが、日ごろから健康面に気をつけていますか。
- ③仮に自分になった場合には、どうしますか。老後のプランは、また、町の在宅福祉サービスを知っていますか。

**40代夫婦**

久 稔さん ご夫妻  
植田 勝子さん



久稔さん、勝子さん夫婦ともに家業を営んでいる。家族構成は、両親に保育園に通う子ども一人の五人で暮らしている。久稔さんは、創業約80年の植田製機工業の三代目である。

**50代夫婦**

仲 宏さん ご夫妻  
吉田 民子さん



仲宏さんは金田町郵便局勤務、民子さんはカトリア美容院を営んでいる。夫妻ともに50代半ば。家族構成は、兄弟を含めた四人家族。現在は次男と三人で暮らしている。4月に初孫が誕生したとのことである。

①の質問  
博幸さんは、「寝たきりとか痴ほう症にまっくならないという保障はないよね。でも、いまは若いから不安とか考えたことはないね。」  
「まず、お互いの両親のことを考えますよね。もし寝たきりになった場合に、自分たちがどう介護していくかっていう心配の方が先でしょうね。自分たちにも可能性はなきにしもあらずって思います。いま、三十代後半で倒れる方が多いですよね。そんなことを考えたら少し不安になってきますよ。」と三千代さんは言う。

②の質問  
「年齢が若いからとか、高齢だからとかじゃなく自分の仕事関係の人は、血圧が高い人が多いよね。自分自身も高いんだよね。検診受けなくちゃ考えるけど、思い出したときになって感じだね。」と博幸さん。  
三千代さんは、「私は会社の方で年に一度は健康診断を受けてますけど、彼の方が心配ですよ。いまの時期は特に炎天下で仕事しているでしょ。帰ったらエアコンをガンガンって感じだから、心臓にも負担がかかるなって思いますよね。」

③の質問  
「正直に言ったら、やっぱり子どもたちに面倒みてもらいたって思いますけど、これからはますますそういう社会でなくなっていくと思うんです。町の福祉サービスはいろいろとあるのは知っています。以前、書道ボランティアで老人保健施設へ行ったときに、施設のなかの充実やリハビリを目にして、ああ、自分たちも歳を取ったらこんな施設にお世話になるだろうとは思ってますよね。」と三千代さん。  
博幸さんは、「やっぱり老人施設とか、設備や人材がそろっているからその方面に頼る以外にないと思うね。自分たちが高齢になったときには、いまより人材をきむ設備や医療は充実してくるだろうし、社会的にも進んでいくとは考えるね。甘いかもしれないけど。」  
自分たちの子どもに期待を抱いているというのは気持ちは確かだ。その気持ちはお互いの親を通してても、感じるという。介護といまの時代の共働き(生活)を両立するのは、簡単なことではないとご夫婦ともに語った。

介護と共働き。両立は簡単ではない……

## 寝たきりや痴ほう症になるかもしれないと…。不安に思うか?

自分自身が老後に寝たきりや痴ほう症になる不安はありますかと、各年齢層の三組のご夫婦に話を伺った。仮になった場合や老後生活のプランは、また町の在宅福祉サービスは知っているのだろうか。

①の質問  
「私はいまは健康だけど、将来、彼がなるかもしれないという不安というか、もしかしたら自分がつて、不安は考えますよ。テレビや新聞で痴ほう症の特集記事なんかを見て、寝たきりから痴ほうに進むのは、なるほどって思いますが、アルツハイマー性とか原因が漠然としていますよね。突然に痴ほう症になるっていう怖さみたいのは感じます。」という勝子さん。  
久稔さんは、「いまの健康状態や年齢から考えたら、なんともピンとこないね。寝たきりや痴ほうになるというのは病気だけじゃないから、事故で寝たきりになったときの心の心配はあるよ。歳を取ったときも若いうちのこと考えてね。それに、私たちの仕事は、請け負ったお宅に上がり込んでするものだから、そこのお宅に寝たきりのお年寄りを介護している家族の姿を目にすることもあるんだよね。なんか感心するっていうか、大変だろうねと感じるよ。」

②の質問  
「家で身体を動かしているけれど、これといって健康に気を使うようなことはしていませんね。いけないことなんですけどね。自分たちの生活のテンポが乱れた時に、家族の誰かが病気になるってかリズムが壊れることが心配ですね。」と、家族全体の健康が一番だという勝子さん。

「去年、急性肝炎で入院して、飲み過ぎ、食べ過ぎには注意しているね。腹八分目じゃなく、腹半分にしたね。おかげで体重は落ちて、いいきっかけだったよ。」と久稔さん。

③の質問  
「いま民間でも国の方でも介護保険制度って充実している段階でしょ。自分たちが老後を迎えて子どもの世代に頼るってことはできないから、期待もしていないよ。だから、保険に頼るか、公的機関の福祉サービスに頼るか、老後の蓄えをどう考える以外に道はないよね。」と久稔さん。  
勝子さんは、「いまは寝たきりのお年寄りとか、めんどうをみていないし、自分がつてもしとも考えられないですよ。少し人ごとみたいな感じはあります。実際にそんな問題を自分のところで抱えたら、生活と介護を両立しなくちゃいけないし、仮に家族の誰かがなったりとか想像すると家庭だけで、できる状況ではないと思いますね。介護がいやとかじゃなくてですよ。やっぱり公的な福祉って思ってますね。」と、自分たちが介護する立場のことを考えると自信はないという。  
また、自分たちの世代が高齢になったとき、老人ホームなんかは定員で限定されると思うから、それよりもデイサービスの福祉をもっと充実させる方が、よりベターではと語った。

自分たちの世代の福祉をもっと充実させるべき……

①の質問  
伸宏さんは、「仕事から福祉関係の施設に出向く機会が多いから、それを目にしたときなんかにはなるかもしれないという不安はあるね。」と言う。  
「四年ほど前から、特別養護老人ホームにボランティアで二か月に一度ほど行っています。仕事を活かした頭髪のボランティアなんです。入所しているお年寄りの方たちと接していると、いずれは私たちもお世話になるかもしれないって考えますよ。まあ、健康で身体が続く限り美容師の仕事とボランティアを続けていこうと思いますね。」と、民子さんは言う。

②の質問  
伸宏さんは、「インスタントものは食べないね。魚介類中心の食生活をしている。郵便局の健康診断では、特に悪いところが出たことがないよ。」  
「私は、血圧が少し高いくらいで、検診も毎年受けています。」と民子さん。

歳を取るにしたがって健康面のチェックは欠かさないと夫妻とも語った。

③の質問  
「う〜ん。なったらあきらめるしかないだろうね。80歳を越えて夫婦ともに元気がいいっていうのが、わたしたちの理想だね。寝たきりや痴ほう症にならないという自信はないけれど、いまから気をつけることしかできないよね。」と伸宏さん。  
「もし寝たきりになったら、老人ホームなんかにお世話になる以外に手はないと思いますね。子どもたちに介護をして欲しいという気持ちは確かにあります。でも、子どもたち自身の生活もあることだし、なっったことを考えたら暗くなりますよね。60歳を過ぎれば考えると思えますね。」と民子さん。  
夫婦ともに年金受け始める年齢が考えたす境目で、いまのところは真剣には考えていないという。  
「両親も元気だし、私たち夫婦の周りにもいないから考えないのかもしれないね。町の福祉サービスはいろいろとあることは知っています。」と、語った。

老後のことを考えると暗くなってしまう……

# ●人口の推移● 2001年には高齢化率が 20%を突破

金田町の、1970年(昭和45年)以降の人口は、1985年(昭和60年)の9,168人といったんは増加傾向にありました。しかし、この年を境に人口は減少し始め、今年6月1日現在の人口は、8,682人。ピーク時より486人減少しています。

高齢者数は着実に増加しており、町の高齢化率(65歳以上人口が総人口に占める割合)も年々高くなってきています。また、1985年(昭和60年)以降から続いている人口の流出も高齢化にさらに拍車をかけています。

65歳以上の人口をみると、1990年(平成2年)は1,262人、今年6月1日現在では1,506人と19.3パーセント伸びており、2001年(平成13年)には1,716人になるものと予測されます。

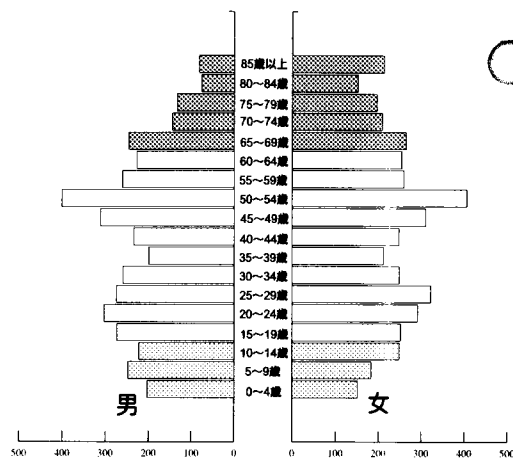
町の高齢化率の推移を全国、福岡県と比較してみると、たとえば、1990年(平成2年)の町の高齢化率は14.1パーセント。これは全国(12.0パーセント)より2.1パーセント、福岡県(12.4パーセント)より1.7パーセント高くなっています。また、2001年になると、20パーセントを越えてしまい全国、福岡県の高齢化率よりずっと高い数値になることが予測されます。

2001年推計の人口構成のグラフをみると、総人口に占める65歳以上の高齢者は、町民5人に1人。またその後20年後には確実に4人に1人以上が高齢者という人口構成となることが予測されます。

この高齢化社会においては、高齢者の生活の安定や適切な福祉・医療の確保と、これら高齢人口を扶養する経済・社会の活力をいかに維持していくかが、重要な課題となります。

年 区分	1970年 (昭和45年)	1980年 (昭和55年)	1990年 (平成2年)	1996年 (平成8年)	2001年 (平成13年)
総人口	8,661人	8,957人	8,915人	8,682人	8,508人
75歳以上	170人 (1.9%)	344人 (3.8%)	512人 (5.1%)	654人 (7.5%)	852人 (10.0%)
70歳以上	374人 (4.3%)	616人 (6.8%)	819人 (9.1%)	1,066人 (12.3%)	1,205人 (14.2%)
(高齢者人口) 65歳以上	678人 (7.8%)	991人 (11.0%)	1,262人 (14.1%)	1,506人 (17.3%)	1,716人 (20.2%)
40歳以上	3,028人 (34.9%)	3,439人 (38.3%)	4,019人 (45.0%)	4,507人 (51.9%)	4,552人 (53.5%)
(生産者人口) 15~64歳	5,989人 (69.1%)	5,771人 (64.4%)	5,680人 (63.7%)	5,694人 (65.6%)	5,537人 (65.1%)
(年少人口) 0~14歳	1,994人 (23.1%)	2,195人 (24.6%)	1,973人 (22.2%)	1,482人 (17.1%)	1,255人 (14.8%)

資料 1970~1990年は国勢調査人口  
1996年は、平成8年6月1日現在の住民基本台帳人口  
2001年(平成13年)は将来人口を推計したものの



2001年の町の人口構成

## ●障害老人の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準●

生活自立	ランク	判定基準
生活自立	ランクJ	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。 1 交通機関等を利用して外出する。 2 隣り近所なら外出する。
準寝たきり	ランクA	屋内での生活はおおむね自立しているが、介助なしには外出しない。 1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。 2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
寝たきり	ランクB	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ。 1 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて生活する。 2 介助により車いすに移乗する。
	ランクC	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。 1 自力で寝返りをうつ。 2 自力では寝返りも出来ない。

## ●寝たきり老人

全国の寝たきり老人の数は、今後の高齢化の進展、特に75歳以上の後期高齢人口の伸びにしたがって、21世紀初頭では約120万人に達するといわれています。

寝たきりは、お年寄りの自身の生活の質を損なうばかりではなく、介護に当たる家族の身体上、精神上の負担も大変なものになります。寝たきり老人の介護を社会全体で支えていくことや、さらにお年寄りが寝たきりにならないようにしていくことが、課題となっています。

寝たきり老人」と一口にいっても、統一的な定義があるのでしょうか。

左の表は、平成3年10月に厚生省が「障害老人の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」を策定したものです。

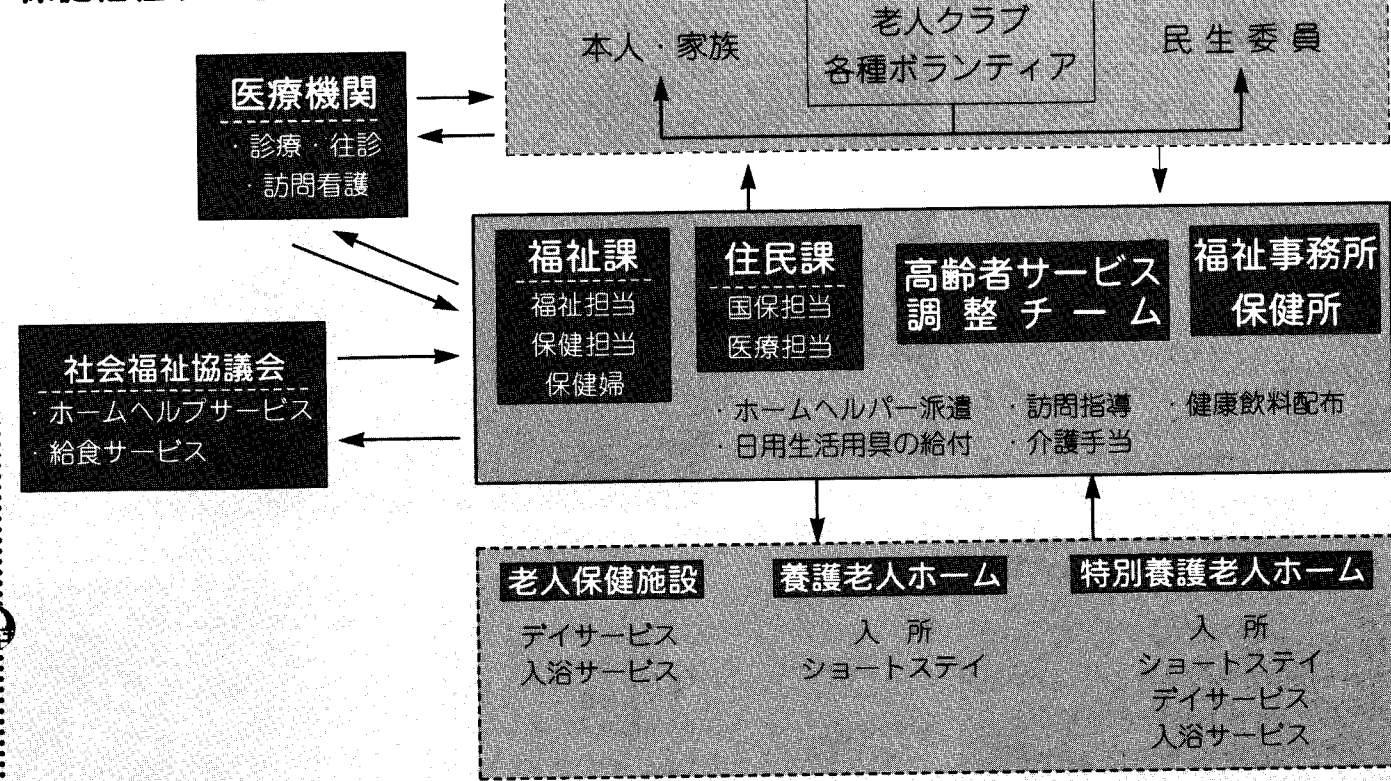
判定基準は、病気やけがやそれらの後遺症、老衰によって身体機能が低下した老人について、「ランクJ」から「ランクC」までの4段階にランクづけをする形になっています。

「ランクB」と「ランクC」が寝たきり老人と定義され、「ランクA」は準寝たきり、いわゆる寝たきり予備群のグループです。また、「ランクJ」は何らかの身体的障害はあるけれど、日常生活はおおむね自立している人が該当します。

金田町が平成4年10月に行った「高齢者実態調査」によると、「ランクB」が5人、「ランクC」が3人と、在宅寝たきり老人は8人、特別養護老人ホームや老人保健施設の入所者、6か月以上長期に入院している在宅以外の寝たきり老人を含めると157人(調査時の65歳以上の人口比率で11.5パーセント)という調査結果が出ました。

また同調査で、「ランクA」と「一部」の準寝たきり老人の数は45人(3.3パーセント)。この調査で、15パーセント弱の65歳以上のお年寄りが、何らかの保健福祉サービスが必要とするという調査結果が得られました。

## 保健福祉サービスの流れ



## ●痴ほう性老人

痴ほう性老人は、医学的には、「いったん正常に発達した知的機能が後天的な脳の器質的障害により持続的に低下し、日常生活や社会生活が営めなくなっている老人」と定義されています。

原因によって、脳血管性痴ほうとアルツハイマー型痴ほうとそのほかのものに大別されます。日本では、脳血管性のものが多く、アルツハイマー型が多い欧米諸国とは異なっています。

在宅の痴ほう性老人については、ホームヘルパーによる介助、老人ホームで一時的にお世話するショートステイや入浴、給食サービスなどが受けられます。また、老人保健施設や特別養護老人ホームへ入所できます。

痴ほうが疑われる場合には、専門の診療所や病院で診断、治療を受けることが重要です。

## ●老人保健福祉計画

21世紀の本格的な高齢化社会に向け、お年寄りに対する保険福祉サービスを的確に拡充していくためには、住民に最も身近な市町村が、地域の実情をきめ細かく把握し、保健福祉サービスの拡充に総合的、計画的に取り組むことが必要です。このため、平成2年6月に老人福祉法等が改正され、平成5年4月から今後の市町村による保健福祉サービスの実施目標や、福岡県の支援体制などに関する老人保健福祉計画を策定することになりました。

金田町では、平成4年10月から寝たきり老人の数など地域のニーズを調査し、これをふまえて、在宅、施設それぞれの保健福祉サービスの実施目標となる「金田町老人保健福祉計画」が平成6年2月に作成されました。

この計画においては、制度事業はもちろんのこと、町の実情に応じた独自事業、ボランティアなどの民間福祉サービスや生きがい対策など幅広く取り上げられています。

## 町の在宅福祉サービス

次のページからは、現在行っている在宅福祉サービスを紹介いたします。



# 特集 在宅福祉

デイサービスとは、在宅の虚弱老人や寝たきり老人を送迎用リフトバスを用いてデイサービスセンターに通所してもらい、お年寄りに入浴、食事の提供、機能回復訓練などの各種サービスを提供するものです。

デイサービスセンターには、利用者のうち寝たきり老人が一定の割合以上のA型(重介護型)、利用者が主に虚弱老人であるC型(軽介護型)、またその中間であるB型(現行型)があります。そのほかには、小規模のD型(一日の定員が8人)と、痴ほう性老人向けのもの(E型)があります。

第二長寿園デイサービスセンターはB型で、糸田町と共同で事業を行っています。センターの利用時間は、月曜から土曜日までの10時から16時。うち金田町の利用日は月、水、金曜日です。一日当たりの利用者数は、平均35人。利用しているお年寄りのなかには、申込者の空きが出た場合には、週に二回利用を望む方もい



健康チェック後、ラジオ体操から一日が始まります。

平行棒を用いた  
日常動作訓練の様相→



て、センターに通うのが楽しみだ、「寝たきりにならない、なりたくないからここにきている」という声もありました。

このデイサービスセンターでは、現在6人のスタッフがサービスを提供しています。

指導員の南 武志さん(41歳)は、「一日を楽しく過ごしていただけることに心がけていますね。利用されているお年寄りのなかには、帰られて家庭での話題が多くなったと大変喜ばれています。」と話します。



午前中に貼り絵などの  
作品作りを行います。



↑入浴介助の様相



紅白に分かれて軽いゲームレクリエーションなどを行っています。写真は、指体操の様相→

介助を必要としている人への入浴サービスを利用しているお年寄りは、「家では、お湯に浸かるのにも一苦労ですが、ここでは指導員の方の介助が助かっています。」と、入浴サービスだけの利用者もいるということ。

午後から行っているレクリエーションは、身体機能と知能機能を高める目的で、職員がアイデアを出してゲームレクリエーションや指体操など愛好をこらしたものが行われています。また、8月20日の盆踊りにむけて、送迎前の30分間練習が行われていました。

# デイサービス

おおむね65歳以上の在宅のお年寄り、身体が虚弱のため日常生活に支障がある方を対象にサービスを提供しています。  
利用回数は1週間に1~2回程度、費用は給食、入浴サービスを受けた実費の一回当たり600円が必要です。お申し込みは福祉課窓口まで。

## ●一日の主な内容●

9:00~10:00	送迎
10:00~10:30	健康チェック(血圧測定)
10:00~12:00	入浴(普通浴)・生活指導 ・介護(爪切り、散髪など) ・日常動作訓練
12:00~12:30	昼食
12:30~13:30	利用者休憩時間
13:30~15:00	入浴(介護を必要とする利用者) 生活指導・日常動作訓練・レクリエーション
15:00~15:30	レクリエーション(踊り)
15:30~16:00	送迎

給食サービスのお弁当を作っている、福祉食堂(社会福祉センター内)の調理員、小原メグミさん(63歳)と松枝佳代子(46歳)にお話を伺った。



一週間の利用者数は、木曜日の53食と月、水、金曜日は30食程度の利用があります。

「1か月の献立は、味はもちろん、バラエティに富んだものや彩りに気をつけていますね。平均、約1600カロリーで食品は30食品を目標にアイデアをだしていますが、利用されている人に喜んでいただけるのは苦勞がありますよ。」と調理師歴の長い小原さんは言う。

以前アンケート調査を行ったが、利用している人の味覚などもまちまちでサービスを開始した当初よりも改善したということでした。

「どうしてもいまの季節、食中毒が気になりますね。O-157の問題もありますし、昼食時間にあわせて、調理しています。」と松枝さん。その日の調理したものは、一週間冷凍保存している。

一食当たりの単価は、400円ぐらい(手間賃も込み)。食材の仕入れには苦勞していますという。

利用から「おいしかったよ」って、言われることがなによりですとお二人とも語っていただきました。



↑宇野貞子さん

と宇野さん。食中毒の流行時は、なるべく昼食時間帯直前に配っているようです。「配食を担当して、お年寄りの友達が増えましたね。」と、コミュニケーションも上々ですと話していました。

利用者のある女性のお年寄りは、「私は木曜日だけ。でもね、普通だと家にあるものだけしか食べんから、いろいろなものを食べられるというのはうれしいよ。弁当を開ける楽しみだね。」と大変助かっていると聞きました。

また、夫妻とも83歳になるご夫婦の奥さんは、「私は歯が悪いから、軟らかいものが食べやすいね。この前のそばは冷たくておいしかったよ。弁当の中身に凝ったものが入るとるが、若もんむきは好かんね。」と、このご夫婦にかかわらず、ご飯も含めて全体的に軟らかめのものが食べやすい、また味付けも甘いよりも塩気の利いたものを好む声が多かった。

## そのほかの在宅サービス

### ●ショートステイ●

ショートステイは、寝たきりのお年寄りなどを介護している人が、病気や介護疲れなどの理由で一時的に介護できなくなった場合に、そのお年寄りを特別養護老人ホームなどにお預かりするものです。期間は、7日以内ですが、やむを得ない事情があるときは期間の延長ができます。利用料は、特別養護老人ホームの場合は1日当たり2,120円養護老人ホームは、1日当たり1,600円。

### ●日常生活用具の給付、レンタル●

寝たきりや独り暮らしのお年寄りなどの日常生活の便宜を図り、在宅での生活の維持、継続には福祉用具の利用が有効です。特殊寝台などの日常生活用具の給付やレンタルを行っています。

必要な用具の購入などの費用は、用具の給付を受ける人やその世帯の生計中心者の所得に応じて、一部または全額を負担していただくことになっています。

### ●健康飲料配布事業●

金田町にお住まいで、70歳以上の独り暮らしのお年寄りを対象に健康飲料(ヤクルト)を配布しています。

この事業は、お年寄りの安否の確認と、配布しているボランティア(老人クラブ連合会)の育成を目的に始められました。

お申し込みは、各地区の老人クラブの会長さんや地区の民生委員さんまで。

### ●介護手当支給事業●

自宅で、寝たきりや痴ほう性のお年寄りを6か月以上介護しているご家族に介護手当の支給を行っています。

手当の金額は、寝たきりなどのお年寄り一人当たり月額5,000円です。

# 給食サービス

おおむね65歳以上の独り暮らしのお年寄りやお年寄り世帯、身体障害者の世帯を対象に昼食をお配りするものです。利用回数は、木曜日の1回と月、水、金曜日の4回を選択して利用できます。費用は、一食当たり200円。お申し込みは、地区の民生委員さんを通じて社会福祉協議会まで。



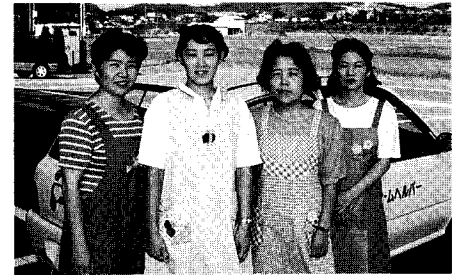
給食サービスを配食されている、宇野貞子さん(38歳)に同行して利用者の声を聞いてみました。

このサービスの配食は、「ふれあい塾を支える会」のボランティア組織が当たっています。一食当たり100円で、そのうち20円の金額を「支える会」の運営資金に充てています。宇野さんは、今年2月から有償ボランティアで配食を担当。会の理事をしている関係から、白羽の矢が当たったということです。

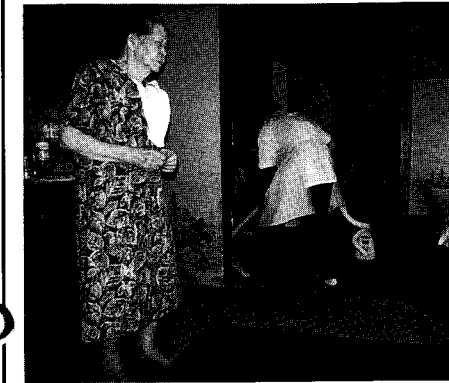
「利用されている方には毎回、同じ時刻でお配りするようになっています。その前や後に用事を済まされる用ですから。木曜日は2時間近く時間がかかりますね。」

# ホームヘルプサービス

在宅の独り暮らしの寝たきりや痴ほう性のお年寄り、また重度の心身に障害を持つ家庭などを訪問して、その自立をお手伝いすることを行っています。  
費用は利用する方の所得に応じて、1時間当たり0円～910円です。  
お申し込みは福祉課窓口まで。ヘルパーの派遣は社会福祉協議会で行っています。



↑左から木戸志津佳さん、藤田アサカさん、大井らん子さん、萬田邦子さん  
4人のヘルパーが訪問しています。



ホームヘルパーは、援助が必要な独り暮らしのお年寄りなどの家庭を訪問して、食事、洗濯、掃除や病院への連絡など身の回りのお世話や、排せつなどの介護をしています。町では、ヘルパーの派遣を受けている方が27人(8月10日現在)。ホームヘルパーは4人で、一日に一人当たり3～4人のご家庭を訪問しています。社会福祉センターの休館日(火曜日)以外、毎日行っています。

この取材では、ヘルパーの藤田さんに同行しました。一週間に一度掃除のお世話をお願いしている折目アサ子さん(84歳)は、「ヘルパーさんに来てもらうようになって、一年です。話し相手にもなって助かってます。」と話していました。食事は週に1回給食サービスを利用して、いまのところ食

の用意は一人でできているそうです。この折目さん、女手ひとつで子ども2人を育て、72歳になるまで土方で働いていたと聞きました。

また、身体障害者で唯一サービスを受けている吉村良子さん(58歳)に話を伺いました。

「38歳のときからリウマチになって、寝たきり状態になりました。」と、当時は若かったし、いまある状態になるとは予想ができなかったといっています。

「7～8年入院していましたが、やっぱり自宅で介護してもらうことが幸せですし、子どもたちやヘルパーさんに感謝していますね。病気をわずらった当時は、まだ町の福祉はいまのように充実していなかったから、家族の介護への負担が多かったですね。」と、当時を振り返る吉村さんは、現在、入浴・給食サービスなど在宅福祉サービスのほとんどを利用しているといっています。

「子どもたちは日中仕事に出ていますから、ヘルパーさんや保健婦さんたちが来ていただくことが、楽しみです。会話することもありハッピーになっています。」という。自宅外へは、2か月に一度ほど検査のため病院に通っています。

「寝ているときの方が楽ですけど、車いすも新しいのを作ってくださいましたし、病院

帰りにお買いものするのが楽しみです。私の母や叔母は若くに亡くなりました。50歳を越えたとき、ああ母より長生きしたなあと思いましたね。」

家の外のせみの声に「来年は開けるかなあと思いますが、今度息子夫婦がいっしょに暮らしてくれるようになりました。」とうれしそうに語っていました。

現在の平均寿命は男性で76歳を越え、女性は83歳に届こうとしています。仮に65歳で定年退職したとしても、その後10年から20年の第二の人生が始まるのです。  
今月15日は「敬老の日」、またこの日から21日まで「老人福祉週間」が始まります。  
自分自身の老後のこと、考えてみませんか。だれもが、この高齢期を迎えるのだから……。

この号の特集の編集集中に三首の俳句が寄せられました。寄せられた俳句を特集のまとめとします。  
夏の朝われもわれもとせみしぐれ  
介護するヘルパーさんと笑いあう  
孫の手と握って思う生きがいと  
広報担当者様 吉村良子

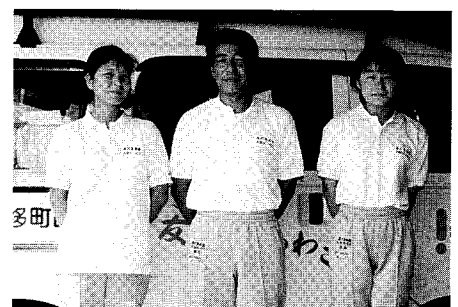


# 入浴サービス

自宅に入浴ができない、おおむね65歳以上の寝たきりのお年寄りや、重度心身障害者の人を対象に巡回入浴カーにより行っています。  
利用回数は1週間に1回程度で、費用は1回当たり500円(生活保護世帯は無料)が必要です。  
お申し込みは福祉課窓口まで。

平成7年8月から行っている「入浴サービス」をご紹介します。

8月7日現在での申込み登録されているお年寄りなどは12人います。そのうち常時利用されている方が9人。町の委託を受けて、特別養護老人ホーム第二長寿園の職員3人が担当。一日に3人(午前1人、午後2人)のペースで、月曜日から金曜日まで15人のお年寄りの入浴サービスを行っています。(糸田町も同ホームへ委託)



↑左からスタッフの尾崎峰子さん、樋口敏実さん、末永佳子さん

いるといっています。最初のころは歩行できる状態でしたが、何度かの入院生活で歩くことができなくなったそうです。今年の正月にも倒れられ、便座への介助も奥さん一人の手ではできなくなりました。普段の入浴は、娘さんと二人がかりで入れているそうで、このサービスは大変助かっていると話していただきました。

サービスを担当している尾崎さんは、「介護されているご家族の苦勞は、大変なものだと感じています。家庭では普段、身体を拭いてあげられることしかできないから、石けんは使いませんが(沐浴剤)、お湯の中に浸かれることで、利用されている方に喜ばれています。」といっています。樋口さんは、「冬場は特に湯冷めには気をつけていますし、浴槽へ介助するときには十分に注意をしていますね。また、寝たきりの方は外部との接触が限られていますから、会話をしてコミュニケーションを大切にしています。」特に、痴ほうぎみの人は、最初は怖がるということです。

今年の4月からスタッフになった末永さんは、「『ありがとう、気持ちよかったよ』って言ってもらえたときに、本当にうれしいです。」と、3人ともにこの仕事にはやりがいがあると話していました。



サービスが始まった当初から利用されているお宅へ、サービスの模様取材した。

まずは、血圧と体温を測定し、健康状態を家族から伺い、入浴できるかどうかのチェックをします。その間に、浴槽の搬入などを準備。入浴後には、再び健康状態をチェックします。サービスの所要時間は、準備から後かたづけを含めて、一人当たり約1時間を越えます。取材した78歳の男性のお年寄りは、脳梗塞で倒れて13年間の寝たきり生活が続いて